

【作文の部】 文芸賞

「おじいちゃんの手まほうの手」

新鶴小学校 三年 山口 開

ぼくのおじいちゃんは、まほうの手をもっています。

おじいちゃんは料理や畑仕事が上手です。それに、いろんな生き物をさわられるし字がきれいです。野球のこともいろいろ知っています。

料理ではラーメンを作ります。おじいちゃんは、にくをいっぱい入れます。そうするとこうらくえんのラーメンより何十倍もおいしいラーメンができます。

畑仕事ではきくやくだ物やいろいろな野さいを作っています。土作りでは何日もかけてえいようたつぶりの土を作ります。植つけのさぎようではしっかり植つけてしっかり水をやります。

また、おじいちゃんが作ったなしやりんごかきなどを秋になるときれいに皮をむいてくれます。とてもおいしいです。

野さいのアスパラやトマトやきゅうりなどはしんせんなのでとてもおいしいです。

おじいちゃんは、へびや魚をさわれます。ぼくはいくらおそわってもこわくてさわれません。でもおじいちゃんはさわれるの



ですごいなと思います。

おじいちゃんの字はぼくのお手本になっています。ぼくもおじいちゃんみたいな字が書けるようになりたいです。

ほかにも野球のルールを教えてくれたり、時々キャッチボールをいっしょにやってくれたりします。

野球のことでは、

「とうるいはこの時に走るんだよ。」
とか

「バスターはこうやるんだよ。」
と教えてくれました。教えてもらったとおりにやってみるとうまくできたのでよかったです。

ぼくがスポ少に入る前は、学校からかりてきた本をおじいちゃんといっしょに読んでいました。だから本をすらすら読めるようになりました。

おじいちゃんの手は、まほうの手です。ぼくたち家ぞくのためにいっぱいまほうを使ってくれています。ぼくも、いつか、おじいちゃんのままほうが使えるようになりたいと思います。

